

球磨村地域 支え合いセンター



仮設住宅を訪問する支援員と入居者

球磨村地域支え合いセンターとは、仮設住宅に入居されている方や自宅避難されている方が、地域のつながりの中で安心・安全な生活を送れるように孤立を防ぎ、生きがいを育み豊かなかわりを生み出すこと、そして被災者一人ひとりが早期の生活再建をできるように、日常生活の見守りや相談支援などを行い、球磨村社会福祉協議会が球磨村の委託を受けて、10月22日設置された。

同センターは職員20名で構成され、被災者宅(仮設団地、自宅)へ戸別訪問し健康状態の確認や生活状況、お困りごとなどを聞き相談に応じている。また、渡仮設団地と錦町仮設団地で、週各三回「みんなの家」に支援相談員二人が常駐し対応している。

戸別訪問している支援相談員の稲田理沙さんは「話し相手がいない」「これからの生活が不安」「村の方向性を早く示してほしい」などの声があると、センター長は「ひとりで悩まないで気軽にご相談ください。」

お問い合わせ
 受付時間 9:00~16:00
0966-34-6500
 球磨村社会福祉協議会
 球磨村地域支え合いセンター

支援員が戸別訪問や電話で、生活上のお困りごとなどをお聞きし、必要な方には行政サービスや関係機関を紹介します」と周知を呼びかけている。

思いつのままに

今思うこと、災害発生から半年が過ぎ我村と我が家の変わり果てた姿を見るにつけ、悲しさ、悔しさと、空しさを感じる毎日である。

こう言うことを思いながら身体は前に進むと思いつながらも、心が中々に進むことができない、そういう切ない日々を悶々と過ごしている毎日である。でも、これから焦らずゆっくり少しずつ前へと歩みを進めたいと思う今日この頃である。しばし、ぶらりと旅にでも出たい心境でもある。

(岡田如水)

校庭から子供たちの元気な声が消えて久しい。令和2年7月4日、あの大水害で村の様相が一変した。高台の小川地区でも3軒が全壊した。小学校の校舎、体育館、校庭全て被災した。隣接する千寿園では、多くの方々の懸命な救助活動で、避難させることができたが14名の命が奪われた。我が家から見える九割方は水没した。

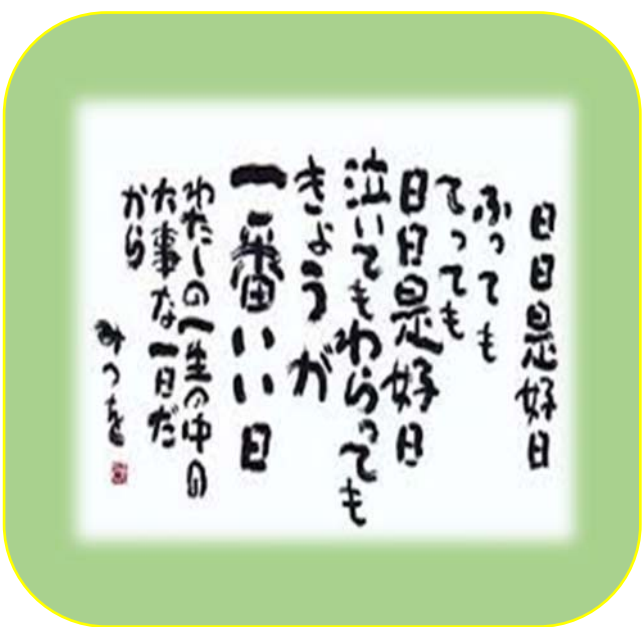
あれから半年が過ぎ、土砂を満載したダンプが行き交い、家屋の解体作業が始まり少しずつ前へ動き出した。しかし被災された方々は、今後新たな住ま

いをどうされるのか、住宅新築もままならないお年寄りはどうされるのか、泥に埋もれた田んぼが以前のようによみがえるのか、離農家がでてくるのではないかと、不安が募るばかりである。村の再生計画も今ひとつ具体性にかけているように見えてならない。

脳裏に焼き付いている姿に、一日も早く復興できる日を願うばかりである。

皆で、力を合わせ、心を合わせてこの難事を乗り越えていきましょう。

(原文のまま)



相田みつを詩集より